

# 平安京左京二条二坊十町「高陽院」発掘調査現地説明会資料

2005年 9月10日

所在地： 中京区竹屋町通油小路西入る西竹屋町

調査期間：2005年7月4日～2005年9月27日（予定）

調査面積：約400m<sup>2</sup>

調査機関：（財）京都市埋蔵文化財研究所

## はじめに

今回発掘調査をしている場所は平安京の左京二条二坊十町の南部に当たり、平安時代中頃から鎌倉時代前期にかけて高陽院があった所です。

高陽院は関白藤原頼通が造営した邸宅で、約252m四方(63,504m<sup>2</sup>)の広大な敷地をもっていました。邸内には寝殿造とよばれる建物群や池をそなえた庭園のあったことが絵巻物や文献などに記されており、当時の貴族の邸宅のなかでも最高のものであったといわれています。

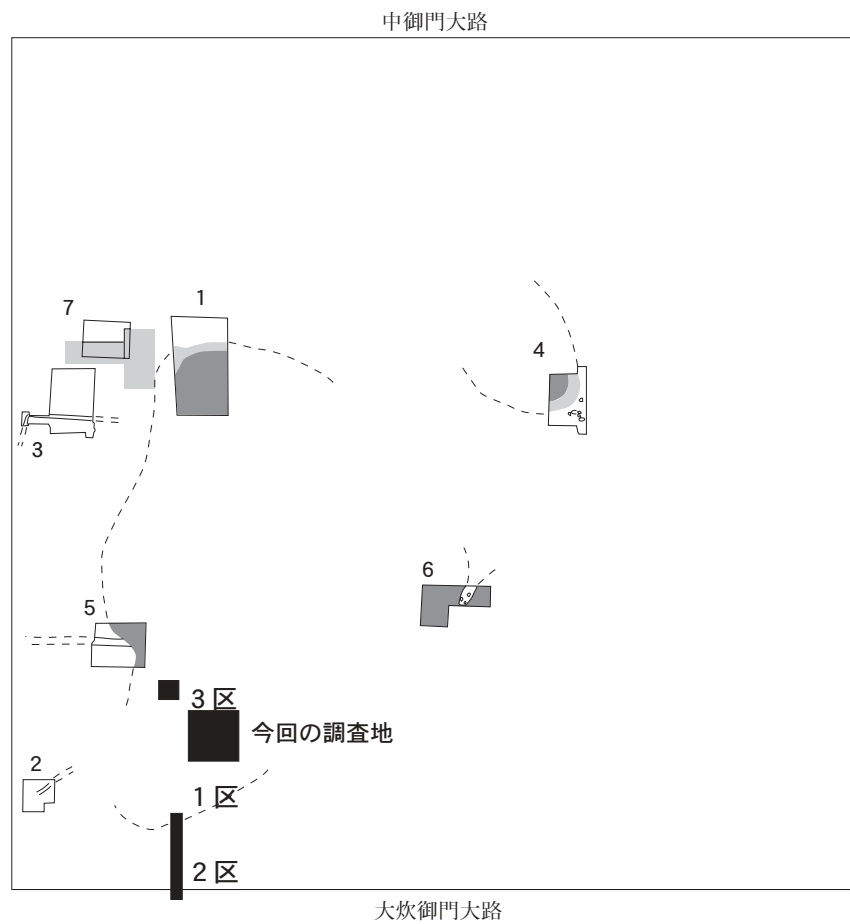
## 調査の概要

高陽院跡は過去に7度調査されており、池跡や建物の一部が見つかっています。今回の調査でも池の一部や南岸を確認し、さらにこの邸宅の南側を通過していた大炊御門（おおひみかど）大路の遺構（路面・北側溝・築地）を検出しました。

1区と3区は、池の中であることが確認できました。2区の北端では池の南岸を検出しました。この南岸は、昭和56年度に発見した州浜（北岸、調査地1）から南へ140m以上も離れていることが分かりました。また、この調査地の北西部では、平成元年度に池の西岸（調査地5）が確認されており、高陽院の西半部の池の様子がかなり明らかになってきました。

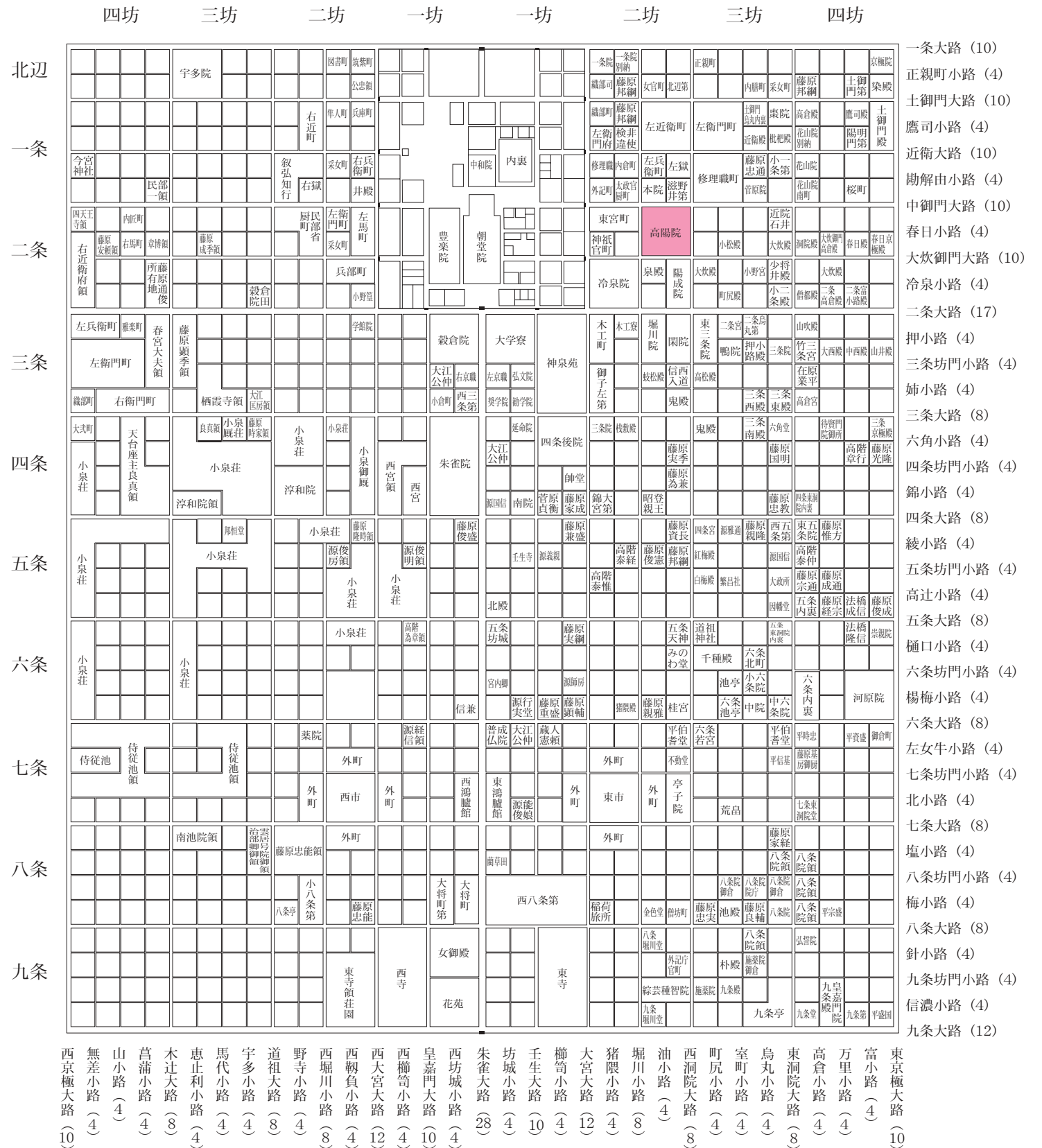
高陽院は造られてから幾度となく焼失し、そのたびに建て直されたことが、文献史料から分っています。今回見つかった池にも造り替えがあることがわかりました。

## 高陽院跡発掘調査位置図



### 既往の調査と今回の調査地

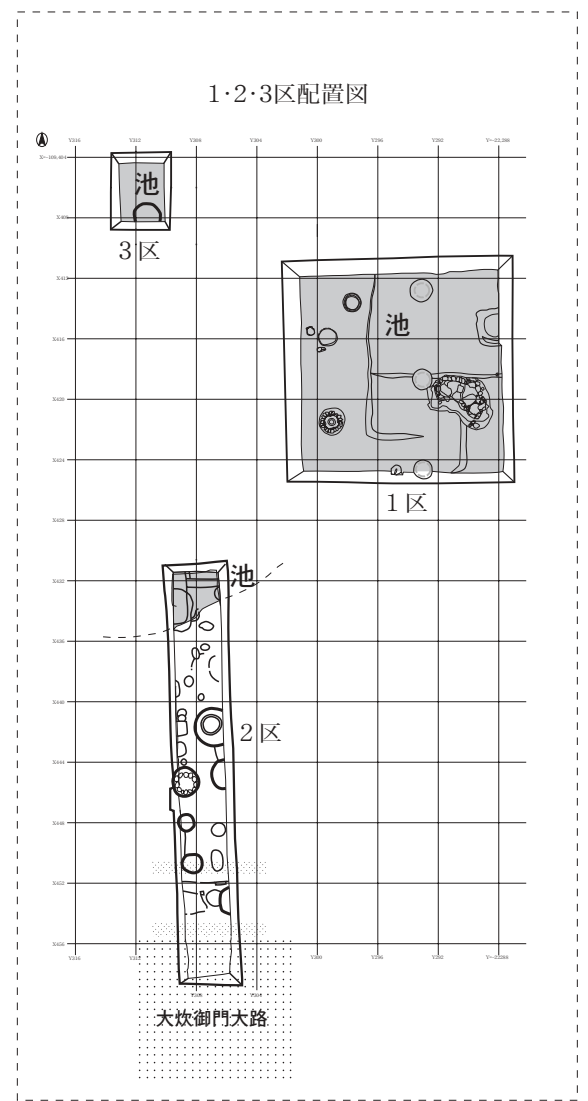
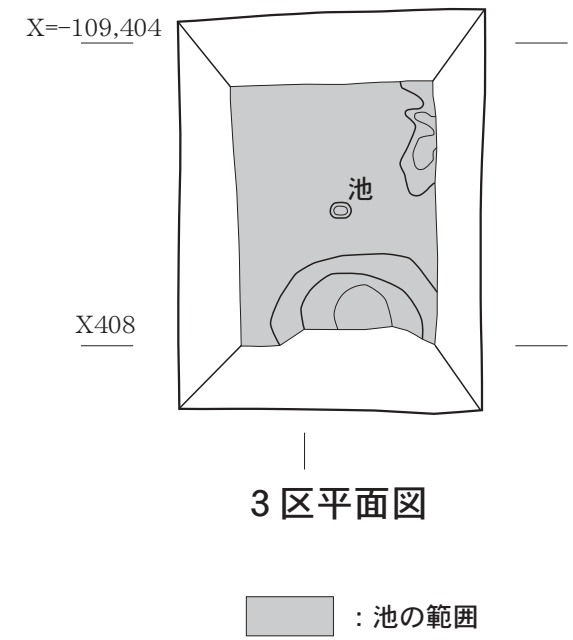
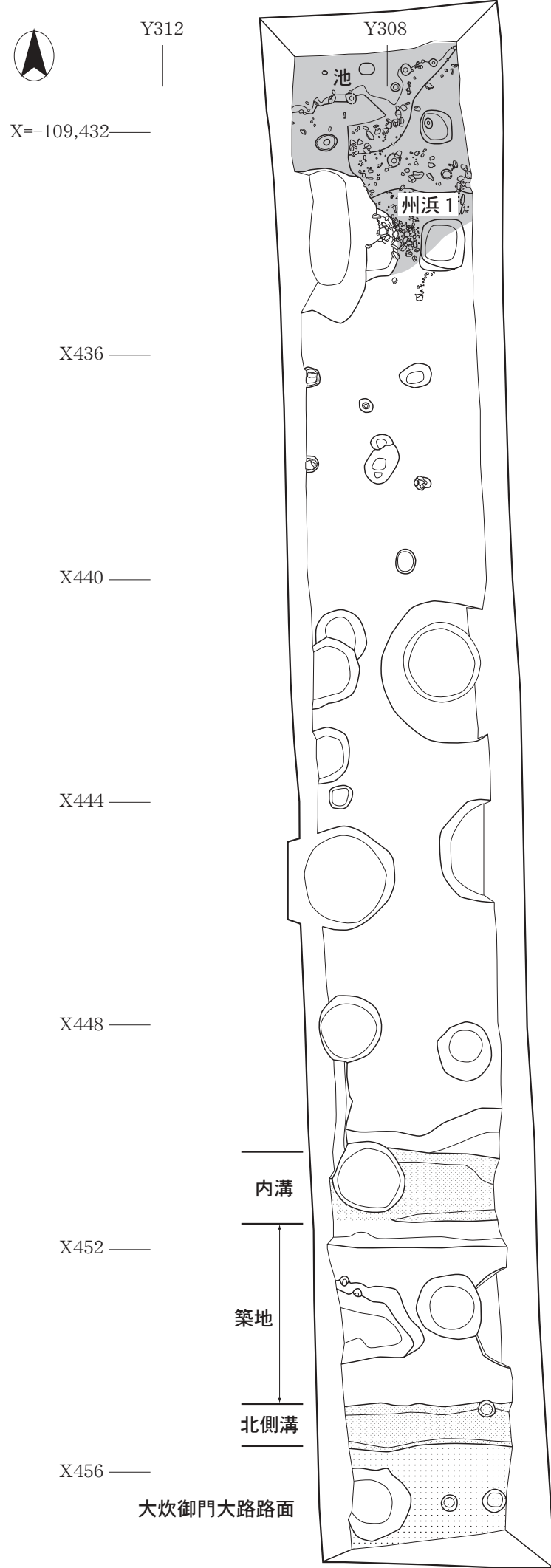
調査地	調査年度	面積	主な遺構
1	1981	456m <sup>2</sup>	池跡、庭石、柱穴列、州浜
2	1981	立会	排水路？
3	1988	296m <sup>2</sup>	園池、景石
4	1988	387m <sup>2</sup>	池、州浜、溝
5	1989	195m <sup>2</sup>	池、東西溝
6	1989	261m <sup>2</sup>	池、地業遺構
7	1997	154m <sup>2</sup>	建物、池



## 平安京条坊復元図と高陽院の位置

高陽院略年表

寛仁 3	1019	藤原道長出家 頼通関白となる この頃、高陽院の造営始める？	
治安 1	1021	藤原頼通 賀陽親王旧邸二町を含む四町に高陽院を造営	
万寿 1	1024	競馬 後一条・東宮（敦良）太皇太后（彰子）ら列席	
	3	1026	高陽院水閣歌合
長暦 3	1039	高陽院焼失	
	4	1040	再建
長久 4	1043	後朱雀天皇遷幸（里内裏）	
天喜 1	1053	後冷泉天皇 冷泉院より遷幸 平等院阿弥陀堂（鳳凰堂）造営	
	2	1054	高陽院内裏焼失
康平 2	1059	高陽院上棟	
	3	1060	後冷泉天皇 三条第より新造の高陽院へ遷幸
	5	1062	後冷泉天皇 競馬・騎射を観覧
延久 1	1069	後三条天皇 大宮院より遷幸	
承保 1	1074	藤原頼通没	
	2	1075	競馬 白河行幸
承暦 1	1077	白河天皇 六条宮より高陽院に移る	
	2	1078	白河天皇 内裏より高陽院に遷幸
	4	1080	高陽院焼失 白河内裏へ移る
応徳 3	1086	堀河即位 白河上皇の院政始まる 師実摂政	
寛治 3	1089	藤原師実 高陽院を再建	
承德 1	1097	堀河天皇 新造高陽院清涼殿に遷幸	
康和 2	1100	堀河天皇 高陽院に遷幸	
天永 2	1111	鳥羽天皇 土御門より高陽院へ遷幸	
	3	1112	皇居高陽院が焼失
大治 4	1129	白河法皇没 鳥羽院政始まる	
元久 2	1205	後鳥羽天皇 高陽院殿へ御移徙	
承元 1	1207	後鳥羽天皇 御所高陽院	
	4	1210	高陽院の馬場殿が焼失
建暦 2	1212	後鳥羽天皇 御所高陽院	
建保 1	1213	順徳天皇 高陽院へ行幸	
	2	1214	二条猪熊が焼亡 余炎が高陽院の東門や中門御車宿等におよぶ
承久 2	1220	皇太子が上皇御所高陽院で袴着	
	3	1221	承久の乱 土御門上皇配流
貞応 1	1222	院御所が炎上 高陽院殿に御幸	
	2	1223	高陽院に放火 数字の殿舎が一時に焼失



2区平面図

3区平面図

1・2・3区配置図



高陽院のようす

『駒競行幸絵巻』 (和泉市久保惣記念美術館所蔵)